



▲82分に1-2と反撃の口火を切るゴールを決めた中山。これで2試合連続得点。今日も高さは際立っていた。



▲「これを最初からやれば結果は違った」と後半の同点劇を振り返った武田。この試合を次に生かせる引き分けにしたい。

基本フォーメーション



Close up “悪魔の左足” に注目！！

寿毅が止まらない。この日2アシストを挙げ、アシストランキング3位タイに急浮上。駒大伝家の宝刀・セットプレーにおける新たなキッカーのエンジンがかかり始めた。

昨季の塚本（現・大宮）が『黄金の右足』なら、鈴木が持つのは『悪魔の左足』。爆音とともにゴール前に吸い込まれるその弾道に、相手DFは反応することができない。一見鋭いシュートのようなボールは、ゴール前の味方の頭への最高のパスとなる。

その背景には味方との強固な信頼関係が存在する。「うちの中の選手は本当に能力が高い」と、信じて蹴る。「ボールが来れば決める自信はある」と豪語する中山をはじめ、

中で待ち構える選手は長身揃いだ。また、同サイドの島田も鈴木にとっては信頼のおけるパートナーである。山中が決めた2点目を振り返ると、鈴木のアシストには島田が密接に関係している。得意のドリブルでサイドを深くえぐり、相手DFをつり出した島田が後方の鈴木へ落とす。これを受けた鈴木は、フリーの状態山中へ高精度のクロスを供給、いわば流れの中でセットプレーを行うことができたのだ。

積み重ねたアシストは、仲間との信頼の証。「中の選手が決めてくれるから、自分が精度あげないといけない」と語る主将の“悪魔の左足”に注目だ。

<第10節終了時点順位表>

	チーム名	勝	負	分	得	失	差	勝点
1	流通経済大学	8	1	1	25	11	+14	25
2	国士舘大学	7	1	2	20	10	+10	23
3	駒澤大学	6	3	1	19	14	+5	19
4	中央大学	4	2	4	25	18	+7	16
5	筑波大学	4	5	1	20	24	-4	13
6	専修大学	3	4	3	10	12	-2	12
7	神奈川大学	2	3	5	11	11	0	11
8	法政大学	3	5	2	12	17	-5	11
9	早稲田大学	3	6	1	14	18	-4	10
10	明治大学	2	4	4	13	18	-5	10
11	東京学芸大学	2	6	2	10	21	-11	8
12	順天堂大学	1	5	4	10	15	-5	7

★得点ランキング★

- 8ゴール 西川優大(筑波大)
- 7ゴール 島田祐輝(駒大)
- 小池悠貴(中大)
- 6ゴール 高橋大(国士大)
- 5ゴール 三平和司(神大)
- 木島悠(筑波大)

★アシストランキング★

- 5アシスト 柏好文(国士大)
- 鈴木崇文(東学大)
- 4アシスト 伊藤大介(順大)
- 鈴木寿毅(駒大)
- 宮下弘(神大)
- 3アシスト 藤田優人(明大)

他11名

Next Preview vs 法政大学



▲リリーフと言ってもいいほど毎回途中出場の仕事をごこなす山崎良。東学大戦でもそうだったように、こうした「ギアチェンジ」要員が疲労した相手DF陣を切り裂く展開もあり得る。

前期最終戦の相手は8位の法大。選手らも警戒するパスサッカーは本田拓也(現・清水)、市川雅彦(現・大宮)ら黄金世代の卒業によってスケールダウンした印象がある。その順位が示すように今一つ結果を残せていない。しかし、10番を背負うエース山本孝平には注意が必要。優れたキープ力と高さを兼ね備え、法大の攻撃はここを経由して始まる。山本へのパスの出どころ、そして1対1の対応は確実に抑えたい。また、攻撃面では前節の課題として表れた試合の入り方が重要となる。体力面では駒大に自分があるだけに、連続性のある攻撃でペースを握り続けたい。前期の締めくくりということで、大臣杯への意識も見えてくる時期。昨年の「悪魔」を振り払うためにも、勝利で前期を折り返したい。

悪魔払拭への通過点